

令和2年度 京都府立峰山高等学校弥栄分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動をとおして、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p>【成果】</p> <p>1 学校評価アンケートにおいて、生徒の93%が「弥栄分校に入学して良かった」と回答し、保護者の98%からは「子どもを入学させて良かった」という回答をいただくなど、分校の教育活動全般に信頼を得ている。</p> <p>2 新設校開設に伴う工事に関して様々な対応を必要としたが、その都度協議を重ね、生徒の健康安全に配慮した上で、制約がある中での学習活動や学校行事を円滑に展開することができた。また、新設校の開校を見通した連絡調整会議の開催など、次年度への準備を行うことができた。</p> <p>3 生徒会や農業クラブ、家庭クラブを構成する生徒たちの自主的、主体的な活動を支援し、その社会性や協働性を育むことができた。</p> <p>4 専門学科の特色を生かした学びを深化させるとともに、地域や他校との連携にも積極的に取り組ませることができた。3年生の課題研究においては、すべての生徒に粘り強く指導を重ねることができた。フロンティア校として研究成果を発表する機会にも恵まれ、校内の研究活動の活性化につなげることができた。</p> <p>5 年間を通じて「校内漢字テスト」や「週末課題」に取り組ませ、多くの生徒に確かな学習習慣や基礎学力を身につけさせることができた。</p> <p>6 支援の必要な生徒や困難家庭の支援に向けて、ケース会議において早期に対応を協議できた。また、スクールカウンセラーや京丹後市の関係部署や医療機関との連携を密に取り、課題の解決に努めることができた。また、学習支援員との協力体制を確立し、生徒への効果的な学習支援活動を展開することができた。</p> <p>7 学校ホームページの更新を積極的に進め、時宜に応じた情報発信に努めるとともに、奈具丘通信を定期的に発行（年間11回）する等、広報活動を推進することができた。</p> <p>〈課題〉</p> <p>1 学習活動全般（特に学習習慣の定着）に関する指導</p> <p>2 遅刻・欠席の防止や好ましい生活習慣の確立に関する指導</p> <p>3 保護者や該当担任との連携を密にした早期の進路指導</p> <p>4 新設校とのきめ細かな連携</p>	<p>1 2年後の弥栄分校閉校を見据えた教育活動実施に向けての工夫。</p> <p>2 清新高校とのきめ細かな連携を踏まえた各種行事の充実。</p> <p>3 「探求Ⅱ」「課題研究」の充実による、自主的かつ積極的に学ぶ態度の養成。</p> <p>4 専門学科の特性を活かした教育活動の実践とその充実。</p> <p>5 個々の生徒に応じた早期段階の進路指導の展開とその充実。</p>

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。
A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	生徒の学力向上の推進	<p>○公開授業週間や生徒対象授業評価を年2回ずつ実施し、恒常的に授業改善に取り組み、わかる(丁寧)に語りかけ、問いかける) 授業を継続的に実施する。</p> <p>○校内漢字テストを年8回実施し、基礎学力の定着を図るとともに、成績優秀者を5名以上出す。</p> <p>○週末課題の取組を通して、家庭学習習慣を身につけさせる。課題全提出者を15名以上出す。</p> <p>○学年と協力して試験前学習会や振り返り学習、補習を設定するなどして、年度末の評定平均でE評価の生徒をなくすとともに、A評価の生徒を10名以上出す。</p>		
	授業規律の確保。遅刻・怠学の防止	<p>○50分の授業時間を生かすため、全教員がチャイムと同時に授業が始められるように促す。</p> <p>○教室環境の整備、空き時間の校内巡回、生徒の状況把握等を週に1回以上行い、授業環境を整える。</p> <p>○生徒の教材準備点検週間を年2回設け、授業開始前に教科書等を準備する習慣を身につけさせる。</p> <p>○学習支援員と協力して学習困難な生徒に対し、丁寧な指導を行い、退学者および原級留置者をなくす。</p>		
生徒指導	ルールとマナーを守る規範意識・道徳意識の向上	<p>○身だしなみ、挨拶、入室マナー及び交通マナーを向上させる。</p> <p>○インターネットやスマートフォン使用に関するモラルとマナーについて意識させる。</p> <p>○遅刻防止指導や家庭との連携により遅刻者を減らす(学期5回以上3名以内)。</p>		
	生徒会活動の充実と部活動・ボランティア活動の活性化	<p>○清新高校との連携を密にし、生徒会活動や行事が円滑に積極的に取り組めるよう指導する。</p> <p>○各分掌や各学科との連携を図り、ボランティア活動参加者の増加を目指す。</p> <p>○部活動において清新高校との合同練習の在り方を考え、活動の充実を図る。</p>		

進路指導	3年生全員の進路希望の実現	<p>○全員に個人面談を実施、本人に進路を具体的に自覚させ、早めに必要な準備を促す。 就職応募9月末90%以上A, 70%以上B, 50%以上C 進学応募先決定 9月末90%以上A, 70%以上B, 50%以上C</p> <p>○担任・保護者・学科などと連携して現実的な進路指導を行う。</p> <p>○関係機関と連携して、企業情報を的確に把握し求人確保に努める。</p> <p>○年間計画を立て必要に応じて模擬試験を案内、実施、その結果を進路指導に活用する。共通テスト利用者への対応体制を整える。</p>				
	2年生の進路意識の向上	<p>○各学科の取組と連携してキャリア教育を充実させる。</p> <p>○探求の授業の中で進路を意識した仕事調べ、プレゼンテーション、模擬面接を行う。</p> <p>○2学期下旬に幅広い進路学習を行う。2年生全員の進路面談を1月～2月に実施することで、3年生になるまでに希望進路をしっかりと考えさせる。1月の進路希望調査 未定者0名A, 2名以下B, 5名以下C</p>				
人権教育	生徒・教職員の人権意識の向上	<p>○各学年ごとにテーマ設定を行ない、学期に1回以上の人権学習を行い、人権意識を高める。</p> <p>○人権意識の視野が広がり、生徒理解につながる教職員研修を年1回実施する。</p>				
	人権尊重の環境整備と人権侵害事象への迅速な対応と収束	<p>○お互いの違いを許容し、相互に人として認め合い、支え合うことのできる雰囲気作りに努める。特に日頃の言葉遣い・行動を意識する。</p> <p>○人権侵害事象に速やかに対応することで早期収束に努める。</p>				
健康・安全教育	健康保持のために必要な実践力の育成	<p>○保健学習を年3回以上実施し、自らの健康について考えさせる機会を設ける。</p> <p>○「保健だより」を年10回以上発行し、健康や安全に関する知識を身につけさせる。</p> <p>○「食育だより」を学期に1回発行する。</p>				
	美化清掃活動の推進と学習環境の整備	<p>○日々の清掃活動を徹底し、併せて保健委員による清掃活動の充実を図る。</p>				
特別支援教育	配慮を要する生徒へのきめ細やかな組織的支援の推進	<p>○学年・学科・SC・関係機関と連携を密にし、必要に応じてケース会議を持ち、きめ細やかな支援を行う。</p>				

		<ul style="list-style-type: none"> ○「気になる生徒の観察」を年3回以上実施し、全教職員の共通認識となるよう努める。 ○「特別支援教育」に関する教職員研修を年1回以上実施する。 				
図書・情報活動	文化に親しむ心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の時間の設定や案内冊子・図書館だよりを発行し、より一層の図書館利用者増加をはかる。 ・情操教育の一環として芸術作品に触れる機会を設定する。 				
家庭・地域連携	<p>P T A役員と密な連携により P T A 活動の充実</p> <p>ホームページの更新等、積極的な広報活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 役員が互いに声を掛け合い、活動への積極的参加を促し活動を充実させる。 ・校内からの情報提供を受け、また他の教科・分掌の協力を得て、授業・学校行事等に合わせてタイムリーに継続的に活動する。 				
専門学科教育	専門学科の学びを踏まえ、社会に出る力を身につけると共に、地域・学科間連携の充実を図る。	<p>地域の特性を踏まえた授業を意識し、地域連携・地域貢献の実践を図り、還元することを目指す。</p> <p>農園芸科・家政科の連携を進め、専門学科として清新高校へ引き継ぐ取組を推進する。</p> <p>学科での取組を保護者へ紹介すると共に、地域へのアピールとしてホームページの更新を行う。</p>				
普通教科教育	社会生活に必要な基礎学力と自ら考える力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に学習し、達成感を味わえるようなユニバーサルデザインの授業、また将来の職業選択に必要なスキルが身につくような具体例を多用する授業を全普通教科で年1回以上行う。 ・生徒同士での意見交流や全体に向けての発表など、主体的・対話的で深い学びを体感する機会を全普通教科で年1回以上設ける。 ・普通科会議を学期に1回以上開催し、生徒理解を深め組織的な指導を行う。 				

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	
-----------------------	--